



## 地球温暖化防止を目指して！ (eco do!出前講座実施)

5月29日に大島中学校にて、身近な取り組みをと  
おし、地球温暖化防止を理解してもらうことを目的と  
した出前講座が行われました。

本講座は、「みやぎe行動(eco do!)“見える化”事  
業」と命名した事業のひとつで、目的は以下のとおり  
です。

- ① 世界中で問題になっている地球温暖化について、  
その原因や私たちの暮らしへの影響を学ぶことにより、  
受講者が地球温暖化を身近な問題としてとらえ、  
環境について関心を持つきっかけとする。
- ② 地球温暖化の主たる原因である二酸化炭素排出量  
の削減に向けて受講者自らができることがあること  
を知り、環境配慮行動として実践するきっかけ  
とする。
- ③ 環境に対する意識や行動が、受講者を発信源とし  
て、学校や家庭から地域へ広がりつつ、将来に向  
かって県全体の取り組みとして根付く一助とする。

当日は、知事から委嘱された気仙沼地区の「環境教  
育リーダー」菊地ひろ子さんを講師とし、大島中学校  
1年生の生徒12名に対し、エコクッキング・効率的  
な冷蔵庫の使い方といった実習も交え、一人一人が実  
施できる取り組みなどが紹介されました。



## 第1回地域リハビリテーション 従事者研修会

6月6日に当所大会議室にて、今年度第1回目の地  
域リハビリテーション従事者研修会を開催しました。  
当所の地域リハビリテーション事業では、介護負担の  
軽減や利用者の自立支援を図ることを目指し、研修会  
や個別相談をとおして体や状況に適した福祉用具が活  
用されるよう、啓発に取り組んでいます。

今回の研修  
ではリハビリ  
テーション専  
門職（理学療  
法士、作業療  
法士、言語聴



覚士)、福祉用具専門相談員の方を対象に、「リハビリ  
テーション専門職のための座位に関する評価の考え方  
とその実際」というテーマで、福祉用具事業所で活動  
されている「創世テクノエイドセンター」作業療法士  
の大塚理江氏を講師に講義、職種毎のグループワーク

を実施しました。

リハビリテ  
ーション専門職と  
ひとくりにされ  
てしまいがち  
ですが、職種毎  
に分かれて議論  
することで、理



学療法士、作業療法士がかなり違う視点で対象者の生  
活を考えていることが分かりました。「座る」というこ  
とへも、多職種がそれぞれの特性を活かし、チームで  
関わっていくことが重要であることを再確認できる研  
修となりました。



# 復興に奮闘！

～東日本大震災で発生した膨大な量の災害廃棄物を目標の3年内で処理～

【宮城県気仙沼保健福祉事務所】

宮城 英徳 技術副所長兼環境衛生部長

宮城県では平成23年3月11日に発生した東日本大震災により津波被害を受けた沿岸部を中心に膨大な災害廃棄物が発生しました。震災後、私は環境生活部において県全体の災害廃棄物の処理に携わることになりましたが、海水を被った災害廃棄物の悪臭やハ工、自然発火による火災発生など、仮置き場周辺の生活環境に重大な支障となる他、災害廃棄物の存在が復興事業の妨げになるとして早急な処理が求められておりました。そこで、県は被災市町で処理できないものについて、市町に代わって処理をすることとしました。

気仙沼ブロックでは使用できる公有地がなかったことから、計画地の方々のご理解を得ながら民地を借用するなどして、気仙沼市に2カ所、南三陸町には1カ所の二次仮置き場を確保しました。仮置き場には破碎・分別・焼却などの仮設の処理施設を設置し、処理における公害防止や環境への配慮などについて地域の方々による監視の下、細心の注意を払うとともに、処理

工程では地元の企業や地域の方々の力もお借りしながら処理を行ってまいりました。

その結果、目標としていた、平成26年3月をもって全ての処理を完

了いたしました。気仙沼地域の皆様にはこれまで様々な形でご支援ご協力賜りましたことに感謝いたします。

平成26年4月に当所に赴任して3か月が経過し、最近、登米市内のアパートからの通勤にも慣れてきました。

当所では現在、食品衛生、生活衛生など気仙沼圏域の生活環境の維持向上を担う業務に携わっております。また、今後はがれき処理の経験を生かし、各種復興関連事業における環境保全対策にも力を注ぎたいと考えております。



## 気仙沼圏域地域包括ケアシステム研修会 ～気仙沼市・南三陸町でできる地域包括ケアシステムを考える～

6月27日（金）に「気仙沼圏域地域包括ケアシステム研修会」を開催しました。今回の研修会は、管内の医療・介護・行政等の関係者を対象として実施したところ、166名にのぼる参加がありました。

本研修会では、「住民主体の地域包括ケア～気仙沼市・南三陸町でできる地域包括ケアシステムを考える～」をテーマに、立川市南部西ふじみ地域包括支援センターのセンター長である山本繁樹先生から御講演を



いただきました。

その後、気仙沼市・南三陸町で活動されている気仙沼市地域包括支援センターの尾形直子氏、気仙沼市南

部地域包括支援センターの池田良子氏、気仙沼市北部地域包括支援センターの小野寺保代氏、南三陸町地域包括支援センターの竹内裕一氏、ケアマネジャー協会気仙沼支部の小松治氏の5名から実践報告をいただきました。

今回の研修では、地域包括ケアの重要な役割を担う関係者が地域包括ケアシステムや地域ケア会議について共に学ぶ機会を設けたことで、各関係者が果たすべき役割を考えるきっかけづくりとなりました。今後も、この地域でできる地域包括ケアシステムの構築へ向け、取組を継続していきます。



## 第25回 歯の健康のつどい

6月8日（日）気仙沼市民健康管理センター「すこやか」において、第25回歯の健康のつどいが開催されました。

このイベントは‘歯とお口の健康’に関する正しい知識の普及・啓発を目的に、毎年気仙沼市、気仙沼歯科医師会、当所の3者共催で開催しているものです。

当日は雨天だったにも関わらず、約350人の市民の皆様にご来場いただきました。

「よい歯の標語コンクール」と「8020よい歯コンクール」の表彰式、個別相談、歯みがきレス



スコーナー、手作りおやつクッキング、手形作成コーナー等の他、今年度は「口臭測定コーナー」やお茶の井ヶ田の協力で「おいしいお茶の入れ方と講話」が新たに設置され、来場者の関心を集めていました。

喫煙者は歯周病にかかりやすく、また重症化しやすいことから、当所では、禁煙相談コーナーを設置し、禁煙に関する啓発及び個別相談等を行いました。呼気中の一酸化炭素濃度の測定に興味を持っていただいた来場者の方が多く、禁煙の動機付けとなれば幸いです。

健康問題に関心が高い来場者の方が多く、展示したパネルやパンフレット等に関心を寄せていらっしゃいました。

今年も「むすび丸」と「ほやぼーや」が来場し、子ども達と一緒に体操したり、写真を撮ったり等、イベントを盛り上げてくれました。

楽しみながら‘歯とお口の健康’について考える機会となったのではないのでしょうか。



## 食中毒予防について

平成26年6月11日に魚介類による腸炎ビブリオ食中毒注意報が発令されました。魚介類の取扱いについて、ご家庭では次の点に注意して食中毒を予防しましょう。

- 1 冷蔵・冷凍保存し、冷蔵庫の扉は出来るだけ開閉を少なくして庫内の冷気を逃がさないようにするとともに、食品を入れるのは冷蔵庫の7割以下としましょう。
- 2 冷蔵庫で保存するときは、ラップなどをかけるか、ふたのある容器を使用しましょう。
- 3 調理する場合、水道水の流水で表面をよく洗浄し、内臓を取ったあとも十分に洗浄しましょう。
- 4 調理後は、まな板・包丁などは洗剤を使って十分に洗浄し、熱湯等で消毒しましょう。また、手は石けんを使って十分に洗浄しましょう。
- 5 加熱調理する食品は、十分に熱をとおしましょう。



- 6 調理後は早く食べましょう。
- 7 冷凍品を調理する場合は、流水又は冷蔵庫内で解凍するか、電子レンジを使い、解凍後は生の魚介類を調理する場合と同じように注意しましょう。

## 編集後記

早いもので、今年も半年が過ぎました。季節もそろそろ夏本番です。気仙沼みなとまつりや大島夏祭りといったイベントも盛りだくさんですね。

一方で、今回コラムで掲載した食中毒や夏バテなどが心配されるのもこの季節。健康管理や体力作りが大切な季節とも言えます。気仙沼保健福祉事務所も、注意喚起や各種情報の提供などを行っていく予定です。

皆様、夏場の健康管理にはくれぐれもお気をつけてお過ごしくださいね。

（次号は9月の発行予定です。）

